

平成28年5月31日

渋川市議会 会派きぼう・政策調査会・議長 視察研修報告

きぼう代表 望月 昭治
政策調査会代表 細谷 浩
議長 中澤 広行

1. 視察日程: 平成28年5月24日～26日
2. 視察場所: 奈良県 大和郡山市・葛城市
和歌山県 九度山町・高野町
3. 視察議員: きぼう 望月 昭治・須田 勝・星野 安久
政策調査会 細谷 浩・山内 崇仁・池田 祐輔
議長 中澤 広行
4. 視察概要: (1)大和郡山市:まちづくりアイデアサポート事業について
(2)葛城市:すむなら葛城市事業、こども・若者サポートセンター事業について
(3)九度山町・高野町:神社仏閣を核とした観光行政連携

5. 視察報告:

(1)大和郡山市 (平成28年5月24日)

まちづくりアイデアサポート事業

I. 目的

市民が自主的なアイデアに基づき、まちづくりに主体的に参加・参画を出来るようにし、市民がお互いに助け合い、地域に根差したコミュニティを形成する。



大和郡山市職員より説明を受ける



II. 概要

平成18年度より開始された事業で、事業構築に当たり市民公募委員によるワークショップを行い、団体・活動内容・支援金額(上限30万円)等の仕組みは、市民公募団体が主体となり決定。支援団体の選定の際は、市民公募推進委員による書類選考・公開プレゼンテーションといった選考会を行い、年度末には支援対象団体からの実績報告を公開にて実施。

市民公募推審委員の構成は公募市民4名・学識経験者(奈良女子大教授)1名・行政1名の計6名で構成され、公募市民は2年任期で年齢区分・性別により論文形式にて、総務部長を中心とした選考委員会により選出される。

支援対象となる団体は、市内に在住・在勤・在学している人を含む2名以上で構成されるグループで、公益性のある事業や活動が対象。

III. 実績・課題

過去3カ年の事業平均決算額は約500万円。年間10団体程度の支援実施計画を見込んでいるが、実際には市民による選定もあり、支援団体数過剰。大和郡山市としても事業活動内容と自治体活動との差別化を課題としている。毎年同様の支援希望もあり、支援団体も支援金を充てにするため、自立・活動促進についても今後の課題と行政は考えている。

IV. その他

大和郡山市の集中改革プラン

集中改革プラン(リメイク大和郡山プロジェクト)

普通会計決算：平成16年度から7年連続赤字

公用車集中管理・リース契約	清掃・衛生センター長寿命化・省エネ化
土地・車等のインターネット公売	犯罪被害者等の支援への取組
庁舎等照明器具省エネ化	奈良県とのまちづくりに関する包括協定
入札等(電力・エレベーター)見直し	自治会・学校施設防犯カメラ設置
職員の各種手当見直し	大型商業施設出張所で期日前投票
機構改革・部課統廃合	認定こども園建設(幼保統合)
出先機関職員配置見直し	近鉄都山駅前ハスターミナル整備
奈良県広域消防組合設置 (県内37市町村)→市内2分署廃止	幼稚園・公民館耐震改修
公共施設運営見直し(委託・譲渡)	転入・定住・家族の帰郷奨励助成金
特別会計の改善・土地開発公社閉鎖	郡山城天守台整備・城下町復元アプリ
	消防団への空き家外観調査委託

平成23年度以降、24、25、26、27年度も普通会計は黒字となる。

DMG MORI やまと福山城ホール(1,000万×10年)

ネーミングライツ (H28年)

ならっきー球場(120万×10年)

大和郡山市による集中改革プラン

(2) 葛城市（平成28年5月25日）

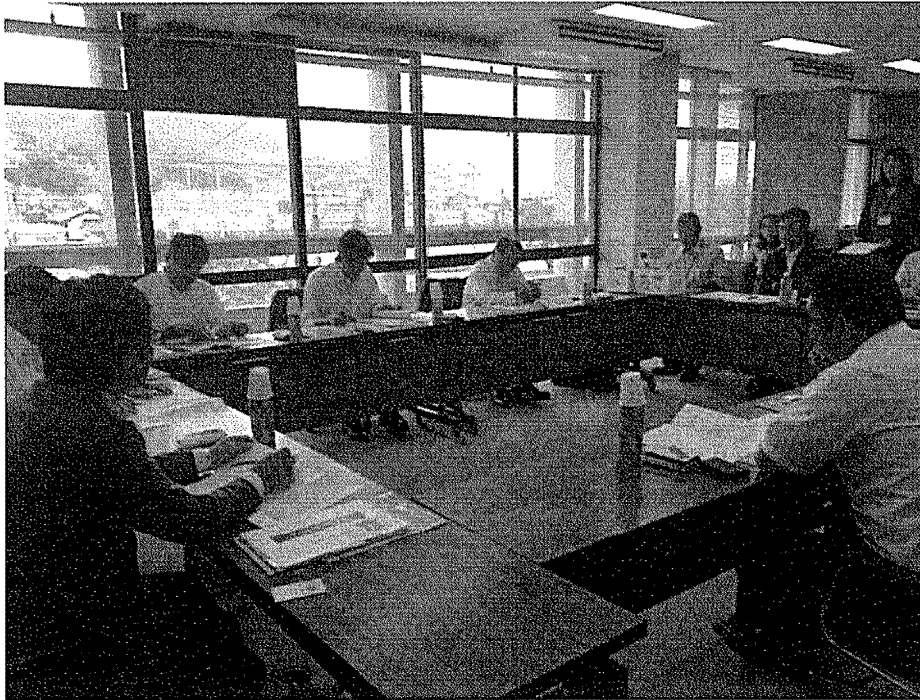
① すむなら葛城市事業

I. 概要

働く世代が住みやすい全国都市ランキング近畿エリア1位（全国813都市中30位）をPRし地方創成の移住促進事業として展開

PRポイント

- ・子供の医療費助成の充実（中学生以下無料）
- ・上下水道料金が安価
- ・大阪市内までのアクセス良好



II. 事業内容

i. すむなら葛城市住宅取得事業補助交付金制度

- ・新築家屋取得 2万円
- ・中古家屋取得 1万円
- ・市内4行の住宅ローン店頭金利から一律1.5%引き下げ

ii. 生産年齢人口増加を担い子育て加算

- ・転入時に中学生以下の子供1人につき1万円の加算（上限3万円）

iii. 地方創成加速化交付金、新型交付金を活用したシティプロモーション事業

- ・ADトレイン広告

近鉄南大阪線において4両編成の車両を利用し、葛城市のPR広告を中吊り（150枚）・ドア横（70枚）を掲示し、車両内を葛城市一色にする。年2回×7日間実施（予算952千円）

- ・デジタルサイネージ広告

近鉄大阪阿部野橋駅のハルカス前自由通路に設置されている、9柱21面のデジタルサイネージに、1枠15秒間葛城市のPRサインを表示。年2回×7日間実施（予算1512千円）

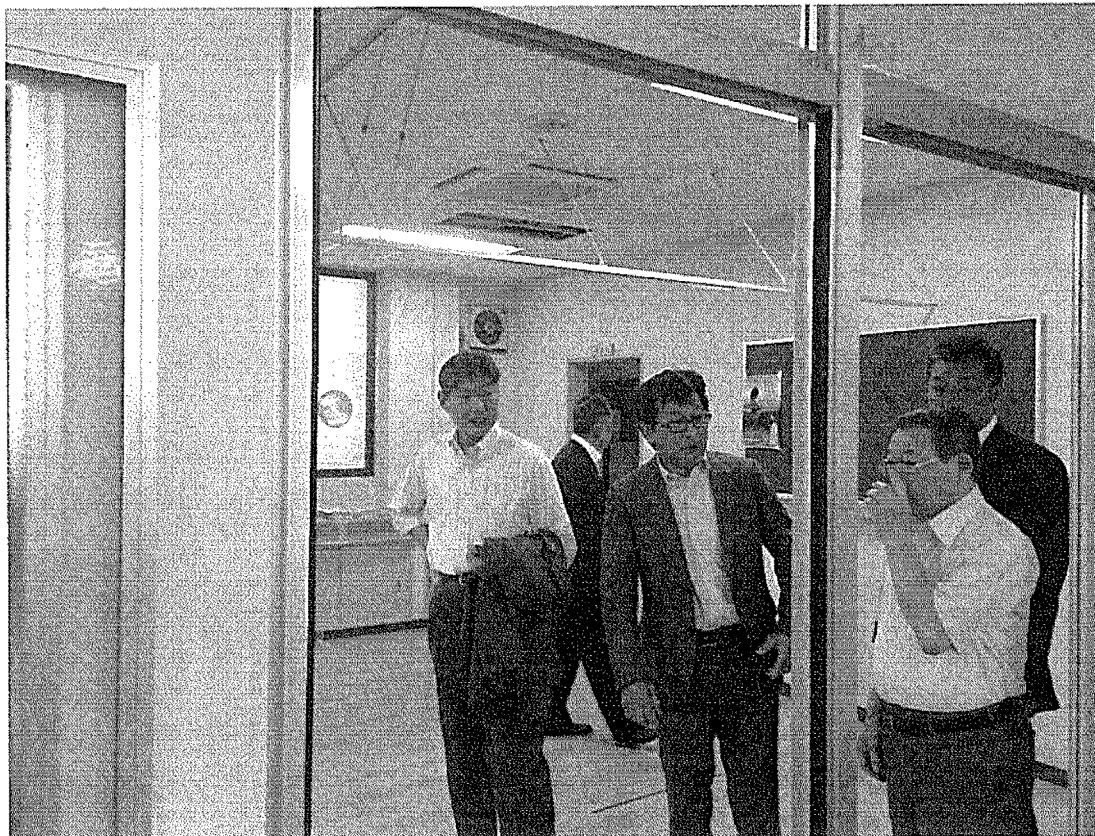
- ・PR映像作成

葛城市の魅力や特色を映像化し、全国的にPRできるコンテンツを作成。作成した映像はYouTube等の動画サイトにアップする。また、市内外のイベント時に市民サービスカーを利用して映像を流す。（予算4216千円（映像制作・車両製作含））

②こども・若者サポートセンター事業(施設見学)

I.事業概要

妊娠・出産～成人まで相談窓口の1ストップ化を図ることを目的にセンターを開設。具体的な相談内容として、子育て・しつけ、発達・障害、人間関係、ニート・ひきこもり、問題行動・非行、いじめ・不登校などで臨床心理士・保健師・保育士・社会福祉士などの専門職が対応する。



(3) 九度山町・高野町（平成28年5月26日）

神社仏閣を核とした観光行政連携（施設見学）

I. 九度山町

九度山町は高野山への入り口としても古くから知られているが、観光事業へ直結する事業として「九度山町まちなか活性化協議会」が立ち上げ、町内にある様々な観光資源の歴史等を紹介するとともに、休憩所等も示して、町内を回遊してもらおうと「九度山まちなかマップ」を作成した。協議会が育成を進めている「まちなか語り部」との連携により、九度山町の街並みや歴史にふれてもらう機会の増加を目指す。また、本年はNHK大河ドラマ「真田丸」放送の影響もあり観光入込客数の増加は著しい。



九度山・真田ミュージアム

II. 高野町

国内からの参拝観光客数は減少傾向にあるが、1999年にフランスの新聞「ル・モンド紙」に取り上げられたことがきっかけとなり、フランスからの観光客が増加している。また2009年にはイタリアのアッシジ市との間で、「高野町・アッシジ市日伊世界遺産都市の文化と観光の相互促進協定」を締結し、高野山を数多くのカトリック教徒が巡礼に訪れる聖地アッシジに伍する、“日本のアッシジ”としてPRをおこなっている。そこで高野町では外国人観光客に配慮した取り組みとして下記を実施している。

i. 景観の整備 ・宗教都市としてのイメージ ・景観行政団体としての認識	iii. インフラ整備 ・Wi-Fiフリースポットの整備
ii. 言語問題 ・観光案内版や道路標識の多言語化 ・路線図、バス停留所表記多言語化 ・ケーブルカー内でのフランス語案内	iv. 情報発信 ・高野町ホームページの多言語化 ・欧州、アジア圏での旅行博へ積極的出展
	v. 体験 ・宿坊での精進料理、お経



高野山真言宗総本山金剛峯寺

4つの事業体(高野町・高野山観光協会・高野町商工会・高野山真言宗総本山金剛峯寺)から構成される高野町観光事業推進協議会が存在し、統一した施策の実施が可能。

また、高野町には観光旅館という民間施設が存在しないため、高野山を訪れた人の多くは52軒の宿坊に宿泊する。この「お寺で泊まる」という宿泊形態は他の観光地では見られない高野山独特のものであり、国内外の観光客にとって高野山の大きな魅力となっている。

6. 視察感想

歴史・伝統と新たな取組との融合が、どの自治体でも見受けられた視察研修であった。大和郡山市は城下町としての発展した都市として資する部分と、現代の問題点(防災、子育て等)の融合のような行政からは発信されることが少ないであろう事業も市民からのアイデアの中に見受けられた。また、葛城市でも転居者や居住者へ配られる資料・冊子に葛城市の歴史などをしっかりとPRする部分が設けられ、市民の地域への愛着を向上させる取組を実施すると同時に地域外へも歴史観のあるゆるキャラなどシティプロモーションへの組込は大いに参考となる。九度山町は、まさに本年が外的要因にて観光入込客数が伸びている最中ではあるが、翌年以降にどのように継続性をもって事業継続していくか改めて確認したい。高野町は仏閣を核とした観光行政としてのインバウンド対策に地域住民が一丸となり取り組んでいる印象である。歴史深いそれぞれの自治体が、過去を大切すると同時に展開し、新たな事業と融合させる施策の手法は、本市も研究が必要である。